

平成 30 年度第 2 回学校教育審議会における主な意見（要旨）

第 2 回学校教育審議会における「市立高等学校改革の方向性について」の意見等は次のとおりです。

なお、整理にあたっては、文章の分割や簡略化、同種の意見の統合等を行っています。

No.	市立稲毛高等学校・附属中学校における主な意見
1	施設的な対応はどうか。単位制にするのであれば教室の確保が厳しくなってくる。また、小さな教室から大きな教室や間仕切りができる教室が必要となるのではないかな。
2	課題解決型学習を取り入れるとなると、図書館を拡充し図書メディアセンターのような設備や、アクティブラーニング型の空間教室やコモン・スペースが必要となってくるので、カリキュラムや教育内容の計画と施設面をどう整備するかが重要となる。
3	(学校の) 外部との交流により刺激を受けることで、(生徒が) 伸びていくこともあるので、そのような部分を作ってほしい。
4	指導者の養成も重要となってくる。
5	入試時期や検査内容は、今後、中等教育学校の枠組みができていく中で、再度検討することが必要となるので、どのくらいの時期までに検討して結論を出すというまとめ方がよいのではないかな。
6	英語だけでなく、探究活動において千葉市の課題をテーマに取り上げる千葉市民科のようなものを作ったらどうかということがあったが、グローバルでありながら自分たちの基盤を考えていく学修を検討するのはすごいと思うし、市政まで動かしていくことができればとても素敵な学校になると思う。
7	12歳の中学生にとって「地域課題やグローバルな社会課題」というテーマがあまりにも大きくて子供たちは地域から離れてくるわけで、自分たちのルーツだとか生活というのを本当に見据えた学習ができるのかというのが危惧である。
8	中等教育学校になると、今まで高校の段階で稲毛高校に行けたはずが、受検できなくなってしまうことになるので、そのデメリットや残念に思う気持ちを上回るくらいすばらしい学校でないと二の足を踏んでしまうところがある。
9	国際バカロレア (IB) の取得は目指しているのか。これから新しい中等教育学校をつくっていく場合に、最初から IB を取らないということではなく方針の一つとして考えていく必要がある。
10	平成 19 年度に併設型中高一貫教育校としてスタートしたが、その時には途中から外進生が入ってくるなど多様な価値観が織り込み済みであったが、そのあたりのことを上回るものを提示していかなければならない。
11	稲毛を根本から変えるくらいのつもりで、フィールドワークの充実を図ったり、普通科だけにするというのであれば、絶えず留学生が校内にいるという内地留学をしているような環境をつくることもできるのではないかな。

No.	市立千葉高等学校における主な意見
1	市立千葉については、SSHコース以外のクラスの教育をボトムアップしていく。課題探究学習を学年全体に広げて教育課程を考えていくことが必要である。市千葉イコール理数教育ということではなく、もっと光輝かせるためにSSH以外のところについてもっと複数の柱を立てて輝くものにできたらよいのではないか。
2	今の構造に課題解決型学習と英語教育というキーワードを入れていくことなので、施設的には変わらない部分がある。しかし、課題解決型学習を取り入れるならグループになって学習するアクティブラーニング型の教室や、図書館をより充実させていくとか、個別学習できる空間を設けることが必要になる。また、ICT機器のバージョンアップやスマートボードの導入も必要である。
3	クロスカリキュラムは非常に面白いと思う。
4	人の問題と施設の問題は学習自体を規制するので、中長期的な検討事項として引き取ってもらいたい。
5	大きな制度改編というより、カリキュラムや教育課程を充実させていくところがメインとなる。
6	答申を見据えたもう少し具現化したイメージしやすい素案を作成していただきたい。
7	方向性として「先進的な理数教育の拡充」という言葉に収まりきらなくなっていると思う。